

外国語(英語)科学習指導案

北広島町立芸北中学校
指導者

- 1 日 時 平成 年 月 日 () 5 校時
- 2 場 所 1 年生教室
- 3 学 年 1 学年 名 (男子 名 女子 名)
- 4 単元名 Unit 3 “わたしの好きなこと”
NEW HORIZON English Course Book 1 (東京書籍)

5 単元について

(1) 単元観

本単元の題材は、転校生のディーパという女の子の自己紹介から始まる。名前、出身、年齢に加え、自分がどんなことをするのが好きかを紹介する。聞き手はそれらを聞き、様々な質問をする展開となっている。

言語材料は、一般動詞の肯定文、疑問文とその応答、否定文である。まず、一般動詞の基本となる肯定文を用いた本文を読むことや書く活動を繰り返し、be 動詞がある文章と理解させていく。次に、教科書に出てくる一般動詞を扱いながら、一般動詞の肯定文や疑問文などを理解させる。さらに、教科書に出てくる一般動詞に加え、他の一般動詞にも触れさせることで、自分の伝えたいことを表現することができる単元である。

上記の内容は、中学校学習指導要領外国語「2 ア 聞くこと (イ) 自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、情報を正確に聞き取ること。」、「2 イ 話すこと (イ) 自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えること。」、「2 エ 書くこと (オ) 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。」に位置づけられている。

(2) 生徒観

本学年の生徒は、小学校における外国語活動のなかでアルファベットを何度も書いてきた。また、一学期当初にフォニックスを繰り返し行い、英単語を発音する際にはフォニックスを意識しながら正しく発音することができるようになった。そのため、5月初旬に行った暗唱テストでジェスチャーを工夫し、抑揚を付けて表現豊かに明澄な発音で話すことができる生徒がいた。一方で、書くことに対して苦手意識を持ち始めた生徒が出はじめている。フォニックスを理解していてもそれに応じて書くことに苦手意識を持っている生徒が多い。

(3) 指導観

指導にあたっては、書くことが難しい生徒も意欲的に学習に取り組めるように、課題解決に繰り返し取り組ませる。このことで、主体的・探求的な学びとなり、常に生徒が必然性を持って活動できるようにしていきたい。そのために、安芸太田町立加計中学校と互いの自己紹介をするために文通をすることを課題の設定とした。また、必要な情報を取捨選択し、新出事項と既習事項をもとに課題を設定していく活動を積み重ねることで、思考力・判断力・表現力等の向上を図る。

次期学習指導要領の「外国語改訂と趣旨と要点」には、「やり取り」・「即興性」を意識した言語活動が十分ではないことが示されている。そこで、即興で伝え合う活動を積極的に取り入れた学

習活動を繰り返し行うことで、習得した知識を生かし、状況に応じて考える力を身に付けさせるとともに、書くことが苦手な生徒にも意欲を持たせ、主体的に学ぶことができるようにしていきたい。

6 単元の目標

安芸太田町立加計中学校の生徒と文通するために、自分の好きなこと、相手の好きなことについて話したり書いたりすることができる。

- ペア・グループワークにおいて、間違いを恐れず話そうとする。 (関心・意欲・態度)
- 自分のことについて書くことができる。 (外国語表現の能力)
- 簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができる。 (外国語表現の能力)
- 相手に質問して、その情報を正しく聞き取ることができる。 (外国語理解の能力)
- be 動詞と区別しながら I like / I play 等を用いた文の構造を理解する。 (知識・理解)

7 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
○自分が好きなことなどを積極的に書こうとしている。	○自分のことについて書くことができる。 ○相手に即興で質問することができる。 ○相手が習慣的にしていることやしていないことについて話し合うことができる。	○好きなことなどについて話し方を理解し話している。 ○自分が習慣的にしていること・していないことについての対話を聞いて、その内容を聞き取ることができる。	○be 動詞と区別しながら I like / I play 等を用いた文の構造を理解している。 ○正しい文の形にすることができる。

8 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

本単元の指導において取り入れる活動を通して、育成する資質・能力は次の通りである。

学習活動	育成する資質・能力	具体的な姿
自分のことについて表現する。	課題解決力	既習事項を活用して、課題を解決することができる。

9 指導と評価の計画 (全8時間)

	学習内容	評価					
		関心	表現	理解	知識	○評価規準 (評価方法)	★資質・能力の評価 (評価方法)
1	課題の設定 ・文通するにあたってどんなことを伝えたいか考える Part1 ・be 動詞と一般動詞の違いに触れる。					◎ ◎be 動詞と区別しながら I like / I play 等を用いた文の構造を理解している。(観察・ワークシート)	
2	情報収集 ・好きなことなどについての文の構造 (I like I play) を理解する。 Part1 ・本文の内容を理解する。					◎ ◎I like / I play 等を用いた文の構造を理解している。(観察・ワークシート)	

3	Part2 ・一般動詞の疑問文を使って相手に尋ねる。 ・本文の内容を理解する。		◎			◎相手が習慣的にしていることやしていないことについて話し合うことができる。(ワークシート)	
4	Part3 ・一般動詞の否定文を話す。 ・本文の内容を理解する。			◎		◎自分が習慣的にしていないことについての対話を聞いて、その内容を聞き取ることができる。(観察)	
5	一般動詞を用いた話す活動 ・グループで話し合う。 ・ある人物になりきって自己紹介文を作ることができる。 整理・分析 情報収集		◎			○人物になりきって自己紹介文を作る。(ワークシート) ○相手に即興で質問することができる。(観察)	
6	創造・表現 自己紹介文を書く ・Unit3 で学んだことを活用しながら印象に残る自己紹介文を書く。	○		◎		○自分が好きなことなどを積極的に書こうとしている。(観察) ◎自分のことについて書くことができる。(ワークシート)	自分のことについて表現する。(観察・ワークシート)
7	自己紹介文を書く ・前時で考えた自己紹介文をグループで添削しあう。 ・相手へ送る手紙の清書をする。				◎	◎正しい文の形にすることができる。(ワークシート)	自分のことについて表現する。(観察・ワークシート)
8	自己紹介文の発表 ・考えた自己紹介文をクラスで発表する。 まとめ・創造・表現		◎			◎簡単な語句や文を用いて即興で伝えることができる(観察)	自分のことについて表現する。(観察・ワークシート)

10 本時の展開

(1) 本時の目標

○○先生になりきってやりとりをしながら自己紹介文を作ることができる。

(2) 本時の評価規準

○簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができる。

【外国語表現の能力】

○人物になりきって自己紹介文を作ることができる。

【外国語表現の能力】

(3) 資質・能力の評価規準

既習事項を活用して、課題を解決することができる。

【課題解決力】

(4) 準備物

ワークシート, ホワイトボード, TV, PC

(5) 本時の学習展開

	学習活動と主な発問	指導上の留意点 (◆配慮を要する生徒への支援)	評価規準 (評価方法) ☆観点別評価 ★資質・能力の評価
導入	1 Warm-Up (1分) ・あいさつ 2 帯学習 (5分) ・教科書の暗唱練習	◇クラスルームイングリッシュを使用することにより英語の授業への切り替えを行う。 ◇本文を抑揚や発音に気をつけながら音読練習する。 ◆期間巡視を行い、発音できない単語がある場合は隣で発音し、復唱させる。	
展開	・本時のめあての確認 ○○先生になりきってやりとりをしながら自己紹介文を作ることができる。 3 グループ活動 (25分) ①カード配布 ②役割の説明 ③グループ活動	◇3人グループになり、配られたカードの先生になりきる。ただし、他のグループに明かさないこと。 ◇グループでそれぞれの役割を分担する。 (役割) ・自己紹介文を書く人 ・質問を考える人 ・インタビュアー ※役割は1文ごとに交代する。 ◇本物の先生に対し、どのようにしてその先生の情報を聞きだすかを考え、インタビューをする。 (インタビュー例) ・ Do you like stones? ・ Do you play baseball? ・ Do you live in Geihoku? ◆ Do you～?というキーフレーズがグループから出てくるか確認する。思い浮かんでいないグループにはヒントを出す。 ◇質問の返答により、その場でなりきった先生の自己紹介文を3文で書く。 ◆質問の返答に合った自己紹介文が書けているか机間巡視を行い、確認し、できていない場合は、例を示す。	☆【外国語表現の能力】 ○簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができる。(観察) ○人物になりきって自己紹介文を作る。(ワークシート) ★【課題解決力】 ○既習事項を活用して、課題を解決することができる。(観察・ワークシート)

展 開	4 3ヒントクイズ (10分)	◇作成した先生の自己紹介文を読み、どの先生のことなのかを予想する ◆読めない単語があるときは隣で発音し、復唱させる。	
ま と め	5 本時の振り返り (8分)	◇本時の学習の振り返りを記述する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">(例) ・自己紹介をするためには、相手の印象に残るものにならないといけないと思った。 ・相手の自己紹介で何が好きなのかが分かった。</div>	
	6 次時の予告 (1分)	◇自己紹介文の下書きを行うことを伝える。	

1 1 単元末パフォーマンス課題

○パフォーマンス課題：既習事項を活用して、文通相手に手紙を書く。

○評価規準：自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。 【外国語表現の能力】

A (十分満足)	○I am... / I like ...など be 動詞と一般動詞の違いを意識しながら自己紹介文を書いている。 ○語と語、文と文のつながりを意識した自己紹介文を書いている。	【例】 I am ○○. I am thirteen years old. I live in Geihoku. I play baseball every day. I like Ichiro very much. Do you like baseball?
B (おおむね満足)	○I am... / I like ...など be 動詞と一般動詞の違いを意識しながら自己紹介文を書いている。 ○語と語、文と文のつながりを意識した自己紹介文を書いているが、内容を理解する上で支障のない誤り (例：綴りの誤り、大文字・小文字の誤り、符号の誤り等) が 1～3箇所間違っている。	【例】 【例】 I am ○○. I am thirteen year old. I live Geihoku. I play baseball every day. I like Ichiro very much. Do you like baseball?
C (努力を要する)	○Bに達していない	【例】 I ○○. I thirteen years old. I Geihoku. I baseball play. I cat. You baseball like?